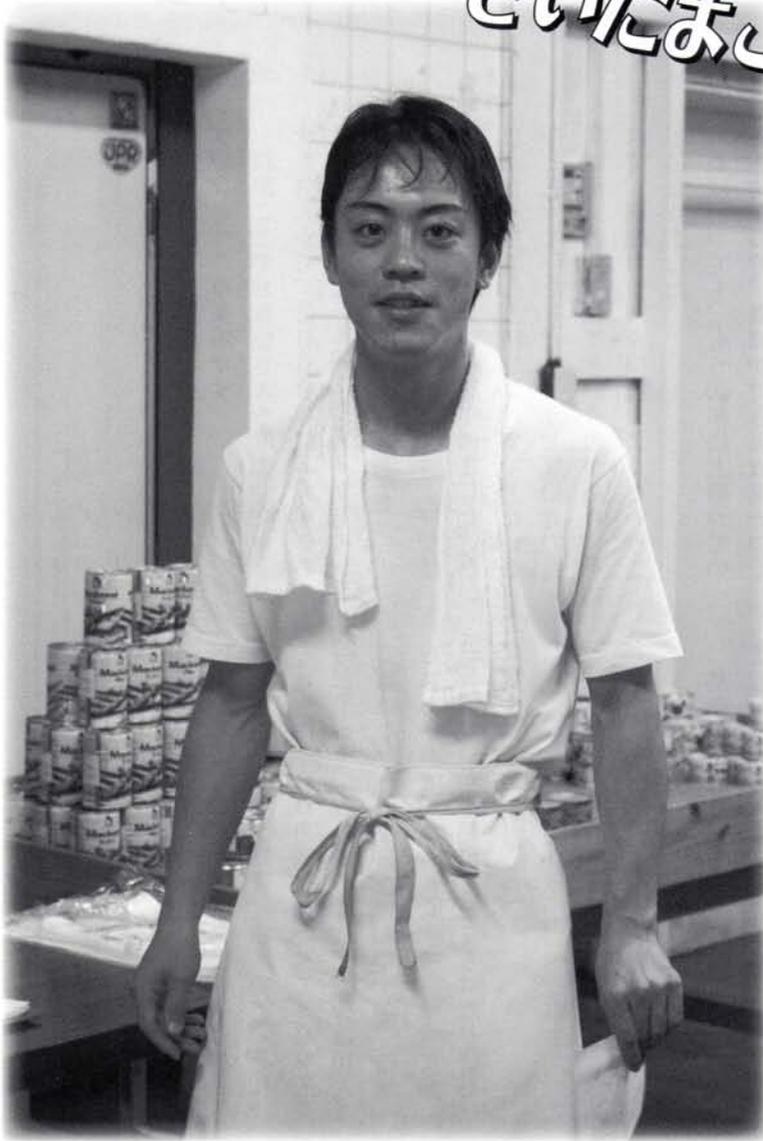


さいたまここに人あり



地域に支えられ、地域を支える

豆腐で仕事起こしをめぐす所沢102☆工房

所沢102☆工房 事業所長 中村幸治 さん

障害者や障害者手帳取得までいかないひとたちの仕事起こしをと、7月15日、所沢市に豆腐屋「所沢102☆工房」がオープンしました。2009年にたちあげたこの事業は、3年かけての始動となりました。いま、ここでは5人の職員と、所長の中村幸治さんが、毎日豆腐づくりをおこなっています。豆腐づくりの苦労や人間関係など困難もありましたが、地域コミュニティで働く場をつくりたいと奮闘する中村さんにお話を聞きました。

基金訓練に挑戦

所沢^{トッパ}☆工房は、ワーカースコープのひとつの事業所です。

以前ここで豆腐屋さんをしていたオーナーさんから、2009年に「ガイアの夜明け」（テレビ東京）でワーカースコープの事業が紹介されたのを観て、「ぜひうちの豆腐屋をワーカースコープで活用してほしい」という話が来ました。なか仕事起こしと結びつけてできないかなと思っていたら、ちょうど雇用能力開発機構（基金訓練）というのがあり、それで、訓練コースを開講しようということになりました。

とはいっても、もう40年以上経っている建物なので、訓練ができる教室をつく



林の中の工房

ったり、機材のメンテナンスで800万円かかることがわかりました。基金訓練に認定されると改修費、設備費で、それぞれ上限400万円、合わせて800万円が出ます。そのためには、訓練員10人を集めなければならぬのですが、結局8人しか集まらなかったのです、すべて自己負担で講座を開講することになりました。

「ぜひやるべきです」

基金訓練のなかで、大変なこともありました。

重度の統合失調症のひとつの話ですが、受講生仲間と一緒に職場実習に行ったり、相手の先生にあいさつをしない。本人はちゃんとしたつもりだったんですけど、まわりからは「ちゃんとあいさつしろよ」と注意を受けたんです。次に新しい職場実習に行ったときに、イヤフォンを付けて職場に入ってしまった。ほかの

この基金訓練の書類を雇用能力開発機構に持っていくときも、「なんで豆腐屋が社会的事業になるのか」と言われました。受講者は、基金訓練を受けても結局就職先がなくて、また基金訓練を受けて給付金で生活するというスタイルができあがってしまっています。この一番の強みだったのは、豆腐をつくる機材も揃っているし、講座を受けたひとたちの出口（就職先）がしっかりあるということでした。その結果、認定を受けることができました。これが、昨年の6月から12月の半年間のことでした。

受講生から「取りなさい」と注意されて、火種が勃発しました。事務局としても、これはなんとかしなければいけないと、彼と面談をおこないました。

その後も彼は、ほかの受講生から集中的に注意を受けるようになってしまいました。彼もずっと言われつづけると落ち着きがなくなつて、調理実習の最中に包丁を持ってブラッと出て行ってしまったんです。それを見たほかの受講生の話が、

大家さんの耳に入って…。

「知的障害や身体障害をもつひとを受け入れるのは問題ないが、精神障害のひとがいるとは聞いていない。そうならば、私たちも契約を考えなければいけない」と言われました。

彼の支援をしている保健所の方と支援員さんと相談をして、一緒に大家さんに会ってもらいました。そこで、「彼はひ

とに危害を加えるような性格じゃない」と話してくれて、大家さんも「それなら」

ということになりました。大家さんも昔、ここの豆腐屋で知的障害を持つひとの就労支援をやっていたので、それを思い出したのか、「これはぜひやるべきです」と言っていたできました。このことは、結果的にとてもいい経験になりました。

赤字からのスタート

昨年12月で講座が終了しましたが、ここからが大変でした。

まず、資金がないんです。協力債、賛同金ですとか、寄付金を募ったんですが、思うように集まらず、全部で150万円しか集まりませんでした。何度も開所が延期して、ようやく今年の7月15日に受講生のうち5人でスタートしました。

もうひとつは、受講生のやる気の問題もあって、法人（ワーカーズコープ）でなんとかしてくれるんじゃないかと、ちょっと人任せというひともいました。ここを立ち上げるまで、何回も話しあいをしました。「これは自分たちの事業だから、

自分たちでなんとかしなければいけないんだ」と考えて、前向きにとりくんでいるひともいました。

それぞれ、賃金を得たいか思いはあるんですが、協同組合で事業をしているので、自分たちでなんとかしなければいけない。協同労働とは、「働く人が主人公」ということです。働く人が主

愛媛から埼玉へ

私はもともと、愛媛県のワーカーズコープ出身なんです。愛媛の病院清掃を請



仕込み作業

体的に関わって、自分たちが決めたことをやります。「協同組合に雇われている」という形ではありません。自分たちで給料まで決められたら、もともと自分たちの事業だという気になるんでしょうけど、いまは時給制で最低賃金の760円を保障しています。

け負っていたワーカーズコープにアルバイトで入ったのがきっかけなんです

ね。それで、面接を受けたときは、「組合」っていわれてもよくわかっていなくて。「出資金が必要なんだよ」といわれて、アルバイトから組合員になりました。いろいろな会議や集まりに参加して、よくわかるようになったのは、20回くらい参加したころかな。

その後、ワーカーズコープの職員になりました。5年くらい前に東松山市の病院清掃の仕事にひとが集まらないから、そこに行ってくれといわれて、埼玉に来ました。その後、狭山市の児童館の担当をして、その後こちらに関わるようになりました。

豆腐づくりの苦労もありまして…

いまは、豆腐や湯葉の製造をメインにやっています。それから、試験的に豆乳プリンとか、油揚げとかも研究しているんです。1日、絹と木綿を30丁ずつ60丁、湯葉が3種類あって20パックずつ。これを3人で製造し、2人が時間差で地域や、市役所の周辺などへ引き売りに行きます。

あとは、県内のワーカーズコープの事

業所や、所沢市職員労働組合や、保健センターさんですとか。そういうところのひとたちが広めてくれていきます。しかし、それだけでは販売目標は達成できませんし、まだ人件費もまかないきれません。

これまで販売するのも、苦労がありました。豆腐屋さんというのは、職人になるまで10年はかかるといわれています。

まだ初めて1年しか経っていないので、季節の変わり目にずいぶん悩まされて…。本当にこれ売っていいのか、というところもありました。にがりを打つときに、力かげんを間違えると気泡ができてきたり。たまに全豆連（全国豆腐油揚げ工組合連合会などの業界団体）の方に指導していただいています。

本当はスーパーとかに営業をかけたいたなどは思っているんですが、こういう障害者が働く非営利の団体だと、相手方によく知ってもらわないと難しいんです。



安定して供給できるかという問題もあります。唯一、湯葉だけは安定してできるんですね。湯葉は、居酒屋とかに配達したりもしています。

いまいろいろ試行錯誤していて、川越のパン屋さんとかタッグを組んで、うちの

就労継続支援B型めざして

おからを使ってパンとかクッキーをつくらせてもらって、一緒にやろうと考えています。地元の農家の方の協力を得て、「地産地消パック」をつくらうかとも思っています。

す。本当はA型に挑戦したかったんですが、自立支援法が改正されて、法人の定款が「もっぱら福祉に準ずるもの」でなければいけなくなってしまったんです。

障害を持っているひととか、障害者手帳の取得まではいかないひとたちがここで働きはじめたときに、地域で応援団ができればいいなと思っています。事業を立ち上げたいと思ったときに、そういう地域のひとたちが支えてくれる。もちろん、支えられるだけじゃなくて、自分たちも地域に返していく。そうやって仕事起こしができればと一番いいなという、目標はあるんです。

最終的には、一人ひとりが豆腐をつくれるようになること、みんなが豆腐で食べていけるようにしたいと思っています。

いまは、就労継続支援B型事業所をめざしています。B型になると、補助金が出ます。A型は最低賃金を保障しなければいけないんですが、そのかわり、B型は最低賃金ではなく、時間当たりの工賃を出してください、ということになります。



NPO 法人ワーカーズコープ

トウフ
所沢102☆工房

所沢市大字中富 1730-10

TEL : 04-2968-8512

E-mail : spzm8z69@clock.ocn.ne.jp